

空 足
間 羽
再 山
形 山・
成 足
基 羽
本 川
構 周
想 辺

足羽山・足羽川周辺空間再形成基本構想

福井市総務部総合政策室

〒910-8511 福井市大手3丁目10-1

TEL:0776-20-5283

FAX:0776-20-5768

E-mail : sougou@city.fukui.lg.jp

発行：平成26年3月



平成26年3月
福井市



目次

P02 策定の趣旨

P04 基本構想の全体像

P04 各ゾーンの概要

P06 回遊性の向上

P08 各ゾーンの取組

P08 食と華やきのおもてなし空間
〔浜町界隈〕

P10 空と森の出会い空間
〔足羽山〕

P13 湊と人の賑わい空間
〔三秀園跡界隈〕

P14 歴史と文化の学び空間
〔旧北陸道周辺〕

P16 自然と水辺の憩い空間
〔足羽川〕

P18 策定の経緯

P19 構想の推進

目的

本市の中心部に位置する足羽山・足羽川は、豊かな自然が満ち溢れ、今もなお人々の生活に潤いを与え続けています。また、その周辺では、多くの偉人が輩出されるなど、先人たちにより培われた歴史・文化が息づいています。

このような自然や歴史・文化等の地域資源が豊かな中心市街地では、将来の福井国体の開催や北陸新幹線の県内延伸に向けて、まちなか交通の利便性向上や、魅力的な情報の全国発信など、観光誘客の取組を強化する必要性が高まっています。

本構想は、地域資源に磨きをかけ、これらを活用して、足羽山・足羽川周辺を魅力的な空間へと再形成することを目的に策定することとしました。

この構想を契機として、地域資源を活かした市民活動が活発に展開されるとともに、市民と行政が目標を共有し、協働で取り組むことで、人々が訪れたいくなる魅力的な空間づくりを目指します。

目標年次

目標年次 2050年

短期目標年次 2018年 福井国体開催
中期目標年次 2025年 北陸新幹線敦賀開業

「県都デザイン戦略」との関係

平成25年3月に策定した「県都デザイン戦略」は、行政、県民・市民、企業、団体等、すべての県都のまちづくりに関わる主体が、県都の将来像を共有し、具体化を目指すものであり、県都の目指す姿と実現イメージを提示し、まちづくりの方向性と具体的な方策を示しています。

県都の目指す姿のひとつに掲げる「自然を守り、緑や水と共生するまち」では、足羽山・足羽川を「駅・城址周辺から気軽に行くことができ、足を伸ばしたくなる場とするため、愛宕坂周辺、浜町界隈の歴史・文化や、足羽川の水辺空間を活かして再生する」と示しています。本構想は、このような「県都デザイン戦略」の考え方を踏まえた上で、議論を重ね策定しました。

魅力ある空間づくりの視点

足羽山・足羽川周辺の自然や歴史・文化等の地域資源を活かし、市民や観光客にとって魅力的な空間づくりを目指して、以下の3つの視点に基づき、具体的な取組をまとめました。

地域資源の再認識と魅力向上

足羽山・足羽川周辺の豊富な地域資源を、市民が誇りと愛着を感じながら再認識し、その資源を活かした様々な活動を行うことで、地域の魅力の更なる向上とともに観光誘客にもつなげます。

おもてなしの機運醸成

福井を訪れる人々に、地域の魅力を十分に堪能してもらうため、訪れた人々を温かく迎え入れ、心のコもった対応をするなど、おもてなしの機運を醸成します。

市民活動の促進

3つの視点

回遊性の向上

魅力の強化

交通ネットワークの充実

まちなかを快適に散策できる環境をつくるため、交通の結節点などに「ステーション」を設置し、交通手段の選択肢も増やすことで、交通ネットワークの充実を図ります。また、公共交通の運行状況や駐車場等の情報をわかりやすく提供します。

魅力を伝える情報発信

「ステーション」を訪れた人々が、その周辺地域に興味をもち、足を伸ばしたくなるよう、自然や歴史・文化、食など地域資源の魅力を伝えます。

魅力を高めるゾーン設定

足羽山・足羽川周辺の魅力をわかりやすく伝えるため、「浜町界隈」、「足羽山」、「三秀園跡界隈」、「旧北陸道周辺」、「足羽川」をゾーンとして位置付けます。5つのゾーンの特徴を磨き上げることで空間の魅力を高めます。

観光誘客の拠点づくり

福井駅から足羽山・足羽川周辺へと足を伸ばしたくなる動機付けとして、5つのゾーンのうち、「浜町界隈」と「足羽山」を重要なゾーンと位置付け、観光誘客の拠点として整備します。

足羽山・足羽川周辺に5つのゾーンを設け、それぞれの特徴や地域資源を活かし、磨きをかけることで、市民や観光客にとって魅力的な空間を形成します。そのためには、市民が地域資源を再認識し、その資源を活かした様々な活動を行うことで、地域の更なる魅力向上を目指します。

目標年次 2050年

- 短期目標年次 2018年 福井国体開催
- 中期目標年次 2025年 北陸新幹線敦賀開業



[浜町界隈] 食と華やぎのおもてなし空間 ▶ P.8~9

高級料亭街としての歴史と風情が残る中央3丁目「浜町界隈」を、福井駅から足羽山・足羽川方面へ観光客を誘客するための重要なゾーンとして位置付けます。この界隈に、明治初期に福井で活躍したグリフィスの功績を中心に、近代福井の歴史等を学ぶ場を提供するとともに、民間が主体となって「食」を中心とした誘客施設を整備し、観光客の増加を目指します。また、浜町界隈特有のまちなみや足羽川に隣接する特性を活かして、市民や観光客が歩いてみたくなるおもてなしの空間づくりを目指します。

- グリフィス記念館の整備 短期～
- 食の観光誘客施設の整備 短期～
- 落ち着いたまちなみの形成 短期～



[足羽山] 空と森の出会い空間 ▶ P.10~12

まちなかで身近に自然に出会える足羽山を、観光客を誘客するための重要なゾーンとして位置付けます。そこで、自然史の市民学習と専門的な調査・研究を担う自然史博物館に、足羽山のビジターセンターを設置し、市民や観光客のニーズに対応した情報提供や、回遊しやすい環境をつくります。そして、博物館が市民や団体と連携し、その専門性やネットワークを活かしながら、子どもから大人まで、四季を通じて自然に触れ、学び、体験する機会の充実を図ります。また、博物館にある展望白山テラスからの眺望を活かして、憩いの場を提供するなど、足羽山の魅力をさらに高めます。そのほか、足羽山からの眺望を楽しむための整備をさらに進めるとともに、まちなかから足羽山を望む眺望景観の保全に取り組みます。

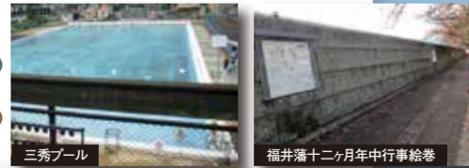
- 足羽山のビジターセンター設置 短期～
- まちなかの自然を活かした学ぶ場の充実 短期～
- 眺望を活かした空間づくり 短期～中期～
- 足羽山の魅力を活かした景観形成 短期～



[三秀園跡界隈] 湊と人の賑わい空間 ▶ P.13

三秀園跡界隈は、福井藩の家老松平主馬家の別邸「三秀園」があったことや、「湊町(みなとまち)」として水運で栄えたことなど、多くの歴史的な資源が点在しています。その資源を活かして地域住民の主体的な活動を進め、地域の魅力を高めます。また、市民や観光客がこの界隈を楽しく、快適に散策できる環境づくりを目指します。加えて、市民とともに活発な議論を行いながら、三秀園跡に立地する三秀プール及び三秀公園周辺を一体的に整備し、歴史と文化の親水空間づくりを目指します。

- 歴史資源を活かした地域づくりの推進 短期～
- 歴史と文化の親水空間整備 中期～



[旧北陸道周辺] 歴史と文化の学び空間 ▶ P.14~15

旧北陸道周辺は、街道筋としての高い空間や城下町の守りの要となった寺町界隈の面影を残すとともに、橋本左内や由利公正等の幕末の偉人との縁深い場所が数多く点在しています。この地域特性を活かすため、地域住民の主体的な活動を促しながら、寺町及び高い空間を再生します。また、左内公園を幕末の歴史が感じられる空間として整備するとともに、その周辺に点在する歴史資源を回遊しやすくするための散策ツールを充実させます。そのほか、風情あふれる愛宕坂や百坂、歴史的建築物である水道記念館を賑わいとくつろぎの空間として、芸術に触れる機会の創出と飲食機能の充実を図ります。

- 住民主体の寺町・高い空間再生 短期～
- 文化や芸術に触れる機会の充実 短期～
- 歴史を通じた郷土愛の醸成と学ぶ場の整備 短期～中期～
- 歴史的建築物を活かした賑わいとくつろぎの創出 短期～
- 散策ツールの充実と景観整備 短期～



[足羽川] 自然と水辺の憩い空間 ▶ P.16~17

足羽川左岸の河川敷は、既に散歩やジョギング、イベントなど、市民に親しまれており、右岸の河川敷は更なる利活用が求められています。そこで、右岸利用の機運を醸成し、市民の主体的な利用をさらに促します。また、右岸の河川空間(泉橋～花月橋)を3つのエリアに分け、短期的にはイベント等の開催により賑わいを創出し、中期的には県・関係団体と協力して、エリアの特徴を活かした魅力ある親水空間づくりを目指します。また、幸橋北側の佐佳枝ポンプ跡地に観光情報発信機能を設置し、浜町界隈や足羽山周辺の観光情報等を提供します。そのほか、四季を通じた花と緑の風景を形成し、緑が連続する空間をつくることにより、「潤い」と「安らぎ」を感じながら散策できる空間づくりを目指します。

- 河川空間の環境保全と利活用の機運醸成 短期～
- まちなか観光発信機能の設置 短期～
- 河川空間の賑わい創出と親水空間整備 短期～



基本構想の全体像 (回遊性の向上)

福井のまちなかを訪れる市民や観光客が、自然豊かな足羽山や足羽川、福井が誇る歴史資源や食等を気軽に楽しめるよう、まちなかに新たな交通ネットワークを構築するとともに、情報発信を強化します。具体的には、交通の結節点である福井駅西口周辺や5つのゾーンにステーションを設置し、超小型EV車やレンタサイクル等の多様な交通手段を確保します。

また、公共交通の運行状況や駐車場等の情報をわかりやすく提供するとともに、次の目的地までの移動手段を案内するなど、5つのゾーンの結び付きを強化し、利便性の向上を図ります。

さらに、足羽山・足羽川周辺への誘客を意識した魅力ある情報提供やわかりやすい案内サインの充実を図ることで、まちなか観光の回遊性を高めます。

このマップについて

- ... 銅像
- ... 石碑等
- ... 路線バス
- ... バス停
- ... コミュニティバス
- ... バス停

※県都デザイン戦略に準じ、ワークショップ等の意見を参考に記載。位置は若干の誤差あり

ステーション ※ステーションの位置はイメージです
観光情報や移動手段の案内等を行うまちなか観光ステーション。



▲ レンタサイクル



◀ 超小型EV車



【各ステーションの特徴】

① 福井駅西口周辺

交通機関の主要な結節点

駅利用者が浜町界隈や足羽山・足羽川周辺へ移動する手段として超小型EV車やレンタサイクル等を設置。

② 佐佳枝ポンプ場跡地

ITを活用した観光情報発信

駅利用者やその周辺を散策する人に対して、ITを活用し、浜町界隈や足羽山周辺の観光情報を提供するとともに、次の目的地までの移動手段を案内。

③ 浜町界隈(グリフィス記念館)

足羽山・足羽川周辺への誘客

浜町界隈及びその周辺の観光情報を提供するとともに、次の目的地までの移動手段として超小型EV車やレンタサイクル等を設置。

④ 愛宕坂(旧北陸道周辺)

まちなか交通の結節点

路線バスとコミュニティバスが交わる交通の結節点であるため、足羽山周辺や福井駅への移動手段として超小型EV車やレンタサイクル等を設置。また、旧北陸道周辺や足羽山に関する情報を提供。

⑤ 自然史博物館(ビジターセンター)

自然や歴史・文化の情報発信

自然史博物館に足羽山のビジターセンターを設置し、自然や歴史・文化等の情報を提供。また、足羽山やその周辺への移動手段として超小型EV車やレンタサイクル等を設置。

⑥ 三秀園跡界隈

歴史散策の情報発信

三秀園跡界隈は、歴史的な資源が点在しているため、歴史散策の情報提供を行うとともに、コミュニティバス等の移動手段を案内。



高級料亭街としての歴史と風情が残る中央3丁目「浜町界隈」を、福井駅から足羽山・足羽川方面へ観光客を誘客するための重要なゾーンとして位置付けます。この界隈に、明治初期に福井で活躍したグリフィスの功績を中心に、近代福井の歴史等を学ぶ場を提供するとともに、民間が主体となって「食」を中心とした誘客施設を整備し、観光客の増加を目指します。また、浜町界隈特有のまちなみや足羽川に隣接する特性を活かして、市民や観光客が歩いてみたいくなるおもてなしの空間づくりを目指します。

グリフィス記念館の整備 短期～

近代福井の歴史を学ぶ場の提供

福井藩初の留学生 日下部太郎との親交を縁に、福井藩お雇い外国人教師として来福したグリフィスが住んでいた福井初の洋館をイメージした記念館を整備します。記念館では、明治初期に福井で活躍したグリフィスの功績を中心に、近代福井の歴史等を学ぶ場を提供します。また、二人の友情がきっかけとなって姉妹都市となった米国ニューブランズウィック市を中心に、本市の国際交流を紹介します。

洋風建築を活かした憩いとくつろぎの空間づくり



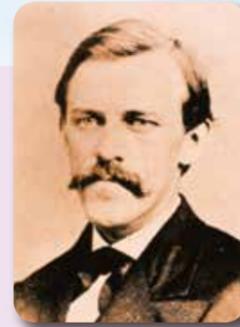
グリフィスが住んでいた洋館

明治4年(1871年)に福井藩が建設したが、明治6年に焼失。ペランダがついた洋風住宅。

グリフィスが住んでいた洋館は、明治期における洋風建築であることから、その歴史と雰囲気を活かした憩いの空間を記念館内に設け、浜町界隈を散策した人が休憩し、くつろぐ場を提供します。

足羽山・足羽川周辺への回遊性向上

足羽山・足羽川周辺への回遊性を高めるため、記念館にステーションを設置し、浜町界隈やその周辺の観光情報を提供するとともに、移動手段を案内するなど、市民や観光客が周辺を散策しやすい環境をつくります。



ウィリアム・エリオット・グリフィス

(1843年～1928年)
米国生まれ。福井藩に教師として招かれ、藩校「明新館」で英語、物理、化学を教えた。福井に日本最初の「米国式理科実験室」をつくり、帰国後は、著書「皇国」で福井や日本を紹介。1926年、政府から勲三等旭日章を贈られた。



グリフィスと福井出身の学生たち

食の観光誘客施設の整備 短期～

福井の食文化の魅力発信

福井の食材や料理の水準は全国的にも評価が高いため、民間ならではの戦略的なプロモーションにより、食の魅力を市内外に幅広く発信し、ブランド力を高めます。また、臨場感あふれるオープンキッチンで福井の食材を使い、伝統的な技を用いて料理が作られていく過程を見たり、実際にその料理を味わったりするなど、観光客が福井の食文化を体験できる場を設けます。



食に携わる人材の育成

料理人が福井の伝統的な調理技術を習得し、その技術を継承するなど、食に携わる様々な人々を育成する場を提供します。

粋と雅が感じられる空間づくり

浜町は、江戸時代から足羽川の水運により繁栄した町であり、多くの料亭が営まれ、城下の繁華街として賑わっていました。その歴史性を背景に、笛や太鼓、三味線等の音が流れ、「舞稽古」の雰囲気



を味わえるなど、浜町界隈特有の文化に触れる機会を提供し、粋と雅が感じられる空間づくりを行います。

足羽川と浜町界隈の料亭街(戦前の絵葉書)

落ち着きあるまちなみの形成

緑豊かで潤いが感じられる景観形成 短期～

浜町界隈は、足羽山と足羽川堤防の桜を望むことができる風光明媚な地区であるため、その自然景観との調和に配慮し、植樹を積極的に行うなど、緑豊かで潤いが感じられる景観形成を目指します。

魅力ある夜間景観の形成 短期～

趣のある街路灯の整備やライティング、店先や玄関口等からの光を良好に誘導し、魅力ある夜間景観の形成を進め、料亭街としての雰囲気を楽しみながら歩ける空間づくりを目指します。



地域住民の主体的な活動を支援する制度の構築 短期～

浜町界隈は「特定景観計画区域」に指定していますが、より良好な景観形成が図られるよう、住民提案型地区計画など、住民主体のルールづくり活動を支援していきます。また、こうしたルールなどに基づき、景観形成助成等の必要な支援を行うことで、浜町界隈の歴史性や雰囲気を意識した落ち着きのあるまちなみの形成を目指します。





まちなかで身近に自然に出会える足羽山を、観光客を誘客するための重要なゾーンとして位置付けます。そこで、自然史の市民学習と専門的な調査・研究を担う自然史博物館に、足羽山のビジターセンターを設置し、市民や観光客のニーズに対応した情報提供や、回遊しやすい環境をつくります。そして、博物館が市民や団体と連携し、その専門性やネットワークを活かしながら、子どもから大人まで、四季を通じて自然に触れ、学び、体験する機会の充実を図ります。また、博物館にある展望白山テラスからの眺望を活かして、憩いの場を提供するなど、足羽山の魅力をさらに高めます。そのほか、足羽山からの眺望を楽しむための整備をさらに進めるとともに、まちなかから足羽山を望む眺望景観の保全に取り組みます。

足羽山のビジターセンター設置 短期～

足羽山の魅力を伝える情報やサービスの提供

市民や観光客が足羽山を何度も訪れ楽しめるように、自然史博物館にビジターセンターを設置します。

まず、専門的な調査・研究による足羽三山(足羽山、兎越山、八幡山)の自然や歴史・文化の情報から、動物園や茶屋などの施設情報まで、幅広く提供します。また、日常的に散歩やジョギングなどを楽しむ人々にとっても、気軽に利用しやすい環境をつくります。さらに、周辺の地域住民や足羽三山で様々な活動を行っている市民、民間事業者との情報共有や交流・連携を行い、新たなニーズや活動の創出を目指します。

足羽山及びその周辺の回遊性向上

センターでは、足羽山を訪れる市民や観光客が楽しく散策できるよう、快適に移動できる環境づくりを行います。また、訪れた方々の好みに応じた散策の方法を提案し、それに必要な移動手段を案内します。さらに、足羽山から周辺地域への回遊性を高めるため、周辺の観光資源に関する情報や移動手段等も案内します。



ギフチョウ



カタクリ



シジュウカラ



継体天皇像



茶屋

まちなかの自然を活かした学ぶ場の充実

● 自然と出会う場の充実 短期～

足羽山は、春のギフチョウ、カタクリの花、夏の昆虫(カブトムシ、クワガタ)、秋の紅葉、冬の星空、野鳥観察など、まちなかで自然に出会える貴重な場です。自然史博物館を拠点として、子どもから大人まで様々な世代が、楽しみながら四季を通じて自然に触れ、知ることができる機会の充実を図ります。



● 笏谷石文化を学ぶ機会の充実 短期～



足羽山で採掘された笏谷石は、古代から様々な物の素材として今日まで使われ、足羽山の麓を流れる足羽川の水運を利用して、広く全国へ伝わりました。福井でも、九十九橋の橋脚、北ノ庄城や福井城の石垣で使われたほか、足羽山や足羽山周辺の社寺、旧家等で瓦、縁石、門柱等での利用や、点在する採掘跡や坑道跡等から、今日でも笏谷石文化の息吹を感じることができます。この笏谷石を介して、足羽山の自然と深く結びついた生活文化や歴史を学ぶ機会の充実を図ります。

● 自然への探求心を満たす体験の提供 短期～

足羽山を四季の自然を体験することができるまちなかのネイチャーミュージアムと位置付けます。足羽山の自然史博物館、福井駅西口再開発ビルに整備する同分館との連携を図り、足羽山から広く地球、宇宙へと、知への探求心を満たすことのできる環境づくりを行います。例えば、博物館で学んだことを天体観望会や様々な自然講座等を通して体験できる機会の充実を図ります。



● 足羽山を守り、親しむ雰囲気醸成 短期～



足羽山は、福井のまちなかにある貴重な里山として、市民の暮らしと深く結びついており、多くの市民や団体が様々な活動の場として訪れています。例えば、健康向上を目的として散歩やジョギングをする人や竹林等の間伐や清掃等の活動を行っている人がいます。こうした市民や団体の活動を支援するとともに、連携を促し、まちなかの自然として、福井の人に愛され、守り伝えられてきた足羽山が育んできた文化の土壌を継承していく雰囲気醸成を図ります。

眺望を活かした空間づくり

● 展望白山テラスの活用 短期～

自然史博物館にある展望白山テラスは、福井市の中心部をはじめ、白山連峰を一望できるため、その眺望を活かした利用をさらに進めます。具体的には、花見や花火鑑賞、天体観望会等の賑わいの場として、様々なイベントで活用します。



● 眺望を活かした空間整備 中期～

展望白山テラスを改修し、飲食スペースを設け、テラスへの階段を新たに設置することにより、眺望や美しい夜景を楽しむなど、憩い、くつろぐ空間づくりを目指します。

足羽山の魅力を活かした景観形成

● 花と緑が楽しめる自然環境づくり 短期～

足羽山は、まちなかに四季を演出する景観的なシンボルであるため、桜やもみじ、あじさい等を植樹することにより、花と緑が楽しめる自然環境をつくります。



● 眺望を楽しめる環境づくり 短期～



足羽山からの眺望を楽しむため、展望広場等の整備をさらに進めるとともに、自然環境に配慮しながら、眺望を阻害する枝葉の剪定等を行います。

また、まちなかから足羽山の景観を楽しめるよう、周辺における建築物や屋外広告物の高さ、色彩等について、住民の意識醸成に継続的に取り組むことで、景観の誘導を行います。

● 足羽山からまちなかにつながる緑の配置 短期～

公共施設や住宅地の緑化など、まちなかにきめ細かく緑を配置することにより、足羽山から眺めた際に、足羽山の緑とまちなかとのつながりを実感できるような景観を目指します。



湊と人の賑わい空間 『三秀園跡界限』



三秀園跡界限は、福井藩の家老松平主馬家の別邸「三秀園」があったことや、「湊町(みなとまち)」として水運で栄えたことなど、多くの歴史的な資源が点在しています。その資源を活かして地域住民の主体的な活動を進め、地域の魅力を高めます。また、市民や観光客がこの界限を楽しみ、快適に散策できる環境づくりを目指します。加えて、市民とともに活発な議論を行いながら、三秀園跡に立地する三秀プール及び三秀公園周辺を一体的に整備し、歴史と文化の親水空間づくりを目指します。

歴史資源を活かした地域づくりの推進 短期～



三秀公園周辺には、^{たばこや} 葎屋旅館跡や旧町名由来の石碑、福井藩十二ヶ月年中行事絵巻等の歴史資源が点在しています。その歴史的な背景を活かして、地域では歴史学習会や歴史を紹介することができる人材の育成、散策等の活動が行われています。それらの活動をさらに進めるとともに、子どもたちが地域の歴史に興味をもち、学ぶ機会を提供するなど、歴史資源を活かした地域づくりを進めます。また、地域の魅力を高め、案内機能の充実を図ることで、市民だけでなく、この界限を訪れる人が楽しく快適に散策できる環境づくりを目指します。



歴史と文化の親水空間整備 中期～

三秀プール及び三秀公園周辺は、かつて福井藩の家老松平主馬家の別邸「三秀園」があったことや、足羽川の水運で栄えた「湊町(みなとまち)」としての歴史があります。その歴史性を活かして、照手ポンプ場の更新時期をとらえ、三秀プール及び三秀公園周辺を一体的に整備します。整備にあたっては、市民とともに活発な議論を展開し、この界限を訪れた人が歴史と文化を感じながら、憩い、くつろぐ親水空間づくりを目指します。



福井城下眺望図

九十九橋北詰の西側に位置する照手地区を含む一帯は、現在「湊地区」と呼ばれています。江戸時代には福井城下への生活物資の搬入口として大変重要な場所となるなど、足羽川の水運を利用した河川交通が盛んに行われていたことに由来します。



三秀園

文政3年頃(1820年)福井藩家老松平主馬が築造した別邸。



旧北陸道周辺は、街道筋としての高い空間や城下町の守りの要となった寺町界隈の面影を残すとともに、橋本左内や由利公正等の幕末の偉人との縁深い場所が数多く点在しています。この地域特性を活かすため、地域住民の主体的な活動を促しながら、寺町及び高い空間を再生します。また、左内公園を幕末の歴史が感じられる空間として整備するとともに、その周辺に点在する歴史資源を回遊しやすくするための散策ツールを充実させます。そのほか、風情あふれる愛宕坂や百坂、歴史的建築物である水道記念館を賑わいとくつろぎの空間として、芸術に触れる機会の創出と飲食機能の充実を図ります。

住民主体の寺町・高い空間再生 短期～

旧北陸道沿いの界隈は、足羽山・足羽川の自然や歴史を背景に、寺院の集積や昔ながらの趣のある商店が点在するなど、寺町及び高い空間として面影を残しています。その雰囲気や個性を活かして、食べ歩きやお寺めぐりを行うなど、市民や観光客が楽しくまち歩きができるよう、地域住民の主体的な活動を促すことにより、寺町及び高い空間の機能を再生し、魅力的なおもてなしの空間づくりを目指します。



文化や芸術に触れる機会の充実 短期～



足羽山の愛宕坂は、歴史と文化が感じられる階段坂として親しまれています。その景観を守り、さらに魅力を高めるため、茶道美術館や橘曙覧記念文学館の展示や体験講座、お茶会等の開催とともに新しい場の創出を含め、充実を図ることにより、市民に親しみやすく、観光客が気軽に参加できる環境をつくります。また、風情あふれる愛宕坂の雰囲気を活かしたライトアップイベントやアート作品展、音楽会の開催など、芸術に触れる機会の充実を図ります。



歴史を通じた郷土愛の醸成と学ぶ場の整備

● 歴史資源を活かした地域活動の充実 短期～

左内公園周辺には橋本左内や由利公正、柴田勝家等にまつわる歴史資源が数多く点在しています。地域では、それらを活かしたイベントや歴史学習会、散策等の活動が行われています。これらの活動をさらに充実させることにより、地域の歴史資源を再認識し、愛着を深め、市民だけでなく、市外からの史跡見学者や観光客に対するおもてなしの機運を高めます。



● 幕末の歴史が感じられる公園整備 中期～

足羽ポンプ場の更新時期に合わせて、市民とともに活発な議論を行い、左内公園を幕末の歴史を学び、感じられる空間として一体的に整備します。また、観光客が幕末偉人の功績を知り、歴史資源を回遊できるように案内機能を付加します。



左内公園

歴史的建築物を活かした賑わいとくつろぎの創出 短期～

■ 記念館の利活用による賑わいの創出

水道記念館では、市内と足羽山をつなぐ揚水ポンプ場の跡地として、福井の水や水道の歴史を紹介しています。また、その建物は、大正時代に建築された洋風建築で「登録有形文化財」に登録されています。その特徴的な外観のライトアップや記念館前の広場を市民が利用しやすい環境づくりを行うなど、利活用をさらに進めることにより賑わいを創出します。また、飲食機能を付加することで、市民や観光客が憩い、くつろぐ空間づくりを目指します。



水道記念館

■ 立地を活かした情報提供の充実

記念館の立地を活かして、足羽山と旧北陸道周辺をつなぐ結節点と位置付け、歴史資源や地域の魅力等の情報を提供するとともに、足羽山への移動手段を案内するなど、市民や観光客が散策しやすい環境づくりを行い、回遊性を高めます。



散策ツールの充実と景観整備 短期～

旧北陸道周辺には、歴史資源が多数点在しているため、その資源を回遊しやすくするための誘導サインを設置するとともに、解説板や休み処、トイレ等の散策ツールを充実させます。また、植樹により快適性を創出するなど、市民や観光客が歴史を感じながら楽しく散策できる景観を目指します。



足羽川左岸の河川敷は、既に散歩やジョギング、イベントなど、市民に親しまれており、右岸の河川敷は更なる利活用が求められています。そこで、右岸利用の機運を醸成し、市民の主体的な利用をさらに促します。また、右岸の河川空間(泉橋～花月橋)を3つのエリアに分け、短期的にはイベント等の開催により賑わいを創出し、中期的には県・関係団体と協力して、エリアの特徴を活かした魅力ある親水空間づくりを目指します。また、幸橋北側の佐佳枝ポンプ場跡地に観光情報発信機能を設置し、浜町界隈や足羽山周辺の観光情報等を提供します。そのほか、四季を通じた花と緑の風景を形成し、緑が連続する空間をつくることにより、「潤い」と「安らぎ」を感じながら散歩できる空間づくりを目指します。



仮設デッキ等の整備イメージ

河川空間の環境保全と利活用の機運醸成

● 美しい自然を保全するための活動の充実 短期～

足羽川は、まちなかで身近に自然を感じられる貴重な空間であり、その美しい自然を守る活動として、地域住民や市民組織、民間事業者等が行っている清掃活動をさらに進めます。また、花や緑の植栽を行うことで、「潤い」と「安らぎ」を感じながら散歩できる空間づくりを目指します。



● 河川空間の利活用を促進するための機運醸成 短期～

右岸の河川敷をイベントやスポーツ、地域活動等の場として、市民の主体的な利用をさらに促します。そのために、「まちなか足羽川会議」を活用し、ワークショップやセミナー等を行うことで機運の醸成を図ります。



まちなか観光発信機能の設置 短期～

幸橋北側の佐佳枝ポンプ場跡地に観光情報発信機能を設置し、ITを活用することにより、浜町界隈や足羽山周辺の観光情報を提供します。また、次の目的地までの移動手段を案内するなど、回遊性の向上を図ります。加えて、市民や観光客が休憩できる場を設け、足羽山を眺める眺望スポットとするなど、憩い、くつろぐ空間づくりを行います。そのほか、観光バスの発着場としても利用することで、まちなか観光の利便性を高めます。

河川空間の賑わい創出と親水空間整備 短期～

右岸の河川空間を3つのエリアに分け、それぞれの特徴を活かし、短期的には河川敷を利用しやすい環境づくりやイベント等の開催により賑わいを創出します。また、散歩やジョギングなど、日常的に利用する市民にとっても使いやすい環境づくりを行います。中期的には、県・関係団体と協力して、3つのエリアの特徴を活かした親水空間を整備することにより、市民や観光客にとって魅力ある空間づくりを目指します。



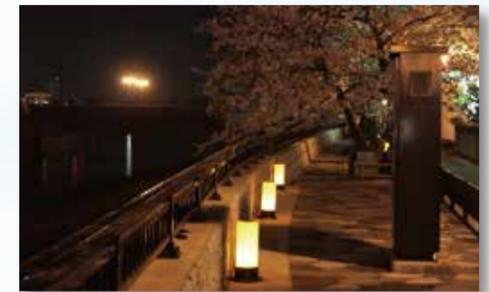
■ 魅力ある広場空間づくり(①泉橋～幸橋)

泉橋から幸橋の河川敷では奥行きを活用し、四季を通じて賑わいを創出するため、河川敷の利用方法についてわかりやすく情報を提供するなど、利便性の向上を図ります。また、インフラを整えることにより、イベントやスポーツなど、様々な用途で利用できる広場空間の整備を目指します。



■ 風情あふれる空間づくり(②幸橋～九十九橋)

浜町界隈から隣接する河川敷にかけて、行灯等の「灯り」を活かしたイベントを実施することで、趣のある夜間景観を演出して魅力を高め、歩いてみたくなる空間づくりを行います。また、観光客が多く訪れる桜の時期などに、河川敷に仮設のデッキを設置し、景色を見てくつろぎ、食事を楽しむ場として活用します。



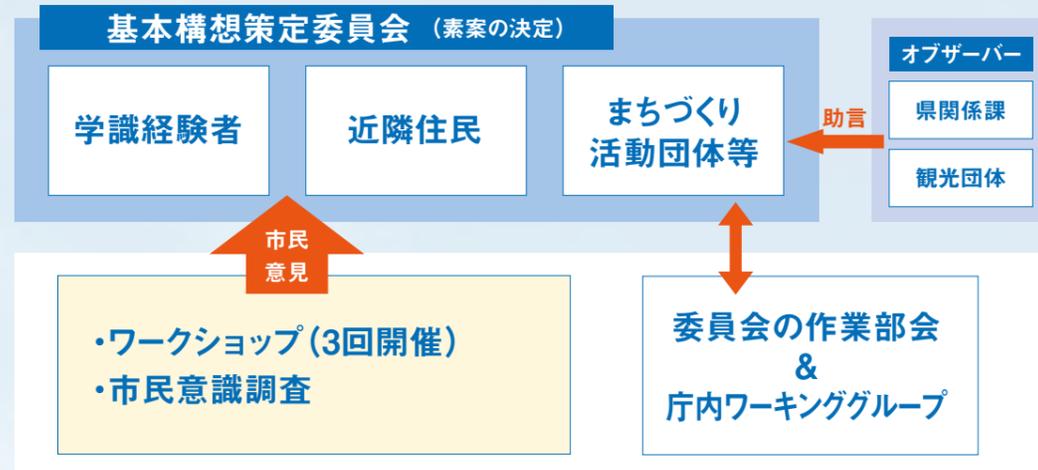
■ 親水と交流の空間づくり(③九十九橋～花月橋)

花月橋付近にある船着き場を活用し、カヌー教室や水に親しみ、体験する活動の充実を図ります。また、この河川敷は湊地区と隣接しているため、地域住民が活動する場として、利用しやすい環境をつくるとともに、三秀園跡界隈を散歩する市民や観光客にとっても魅力ある空間づくりを目指します。



策定の経緯

■ 策定体制



■ 基本構想策定委員名簿 ※五十音順、敬称略

漆崎 惣章	歴史のみえるまちづくり協会常務理事
開発 毅	こみちこまち浜町推進会議代表
柿畑 桂子	順化地区(近隣住民)
小林 基夫	湊地区(近隣住民)
坂田 守史	きちづくり福井会社事務局
下川 勇(委員長)	福井工業大学建築生活環境学科准教授
田中 志敬(副委員長)	福井大学教育地域科学部助教
藤澤 芳一	福井市景観審議会委員
吉川 知薫子	足羽地区(近隣住民)
蓮花 慶子	福井市市民協働推進委員会委員

■ 会議開催経過

○基本構想策定委員会

- 第1回 平成25年 7月 9日(火)
- 第2回 平成25年 10月 15日(火)
- 第3回 平成26年 1月 21日(火)



○基本構想策定委員会 作業部会

- 第1回 平成25年 7月 23日(火)
- 第2回 平成25年 8月 26日(月)
- 第3回 平成25年 9月 24日(火)
- 第4回 平成25年 12月 24日(火)



■ 住民意見の集約

○基本構想策定ワークショップ

- 第1回 平成25年 7月 27日(土)
- 第2回 平成25年 8月 10日(土)
- 第3回 平成25年 8月 31日(土)



○市民意識調査

毎年実施している「市民意識調査」において、基本構想に関する質問項目を設け、市民のニーズについて調査しました。

調査対象	市内に居住する18歳以上の男女 2,500人
抽出方法	平成25年5月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出(地区人口比率、男女、年齢の属性を考慮)
調査方法	郵送による
調査期間	平成25年6月10日(月)～平成25年6月27日(木)
回収数(率)	1,164人(46.6%)

○パブリック・コメント

期 間	平成26年2月3日(月)～17日(月)
意見件数	102件

構想の推進

本構想の基本的視点である「市民活動」、「誘客力」、「回遊性」を相乗的に高めるため、以下の3つの取組を連動させ、市民と行政が協働で推進していきます。



全体の進捗状況や課題共有等を行う「構想推進ワーキンググループ」と、必要に応じて複数の部署で事業を実施する「事業推進プロジェクトチーム(PT)」を市に設置します。また、県や関係団体と協力しながら構想実現に向けた取組を進めます。

構想の目的に共感した地域住民や市民組織、民間事業者の自発的な活動の新規創出や既存の活動の更なる展開を期待するとともに、機運醸成や情報発信等の側面支援を行います。

活動する地域住民や市民組織、民間事業者、学識経験者、関係諸団体、市が情報を共有し、議論できる場を設けるなど、官民協働のネットワークによる推進体制づくりの構築を目指します。